

高島平三郎

たかしま へいざぶろう

児童心理學者。慶應元年七月一日江戸本郷駒込

生れ、昭和二十一年二月十五日歿（八五—九四）。號信翁、蜻洲、蜻

蛉子等。廣島縣内の小學校教員を経て、明治二十年上京。翌年學藝學院

教師となり幼年舎取締の任に就く。二十九年長野縣師範學校に轉じ、

三十二年辭して再上京、小學校教科書の編輯に従事した。爾後成城學

校、日本體育會（のち同會體操學校校長）、日本女子大學、哲學館、

白蓮京大學、獨逸協會等で教授歴任。大正十五年海外巡遊。その後と

り正高等女學校校長等を務めた。

著書 『師範學校心理綱要』（明治二十六年十一月—二十一年）『普及舎』、

『母のたのび』（明治二十六年十一月—二十一年元々堂書房）、『児童心理講

話』（五版・明治四十一年七月—百廣文堂書店）、『現代の傾向と心

の革命』（明治四十二年十一月十六日洛陽堂）、『家庭に於ける心理

學の應用』（明治四十四年五月十二日東京堂書店・服部書店）、『用

意公應 兒童研究』（明治四十四年十月—二十二年洛陽堂）、『心理と人

生』（大正二年十一月十日不老閣書房）、『修養二十講』（大正二年

十月十五日徽部甲陽堂）、『兒童之精神及身體』（大正二年十一月—

十五年日本學術普及會「教育講座」）、『孝子物語』（高島平三郎と

案・渡邊霞亭編述、大正六年十月—二十一年白自學獎勵會「家庭自學文

庫」）、『通俗心理奇問正答』（宮武外骨共著、大正七年六月—二十日文武

堂書店）、『精神修養逸話の泉』（編、第十七編・大正九年六月—日洛陽

堂）、『女心と世の中』（大正十一年二月—二十五年磯部甲陽堂）、『胎

兒嬰兒の教養』（大正十一年八月—二十八年兒童保護研究會「兒童研究

講習録」）、『嫁と姑及び兒童心理と教育』（昭和四年十月十六日家

庭科學大系刊行會「家庭科學大系」）、『新日本女性』(寄附) (昭和十九年一月)二十五日國民教育普及會)等。『高島先生教育報國六十年』(丸山鶴吉編、昭和十五年十一月十日高島先生教育報國六十年記念會)がある。

